10 月 30 日のメッセージ

聖書：創世記　9：　8－17

「永遠の契約」

「全ては神によって創造された」とわかっていながら、増長してしまうのが人間です。神に挑戦し、神をないがしろにします。神の方を見ようともしません。そこで神は、一度、全てを無かったことにしようと思われました(「主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。」創世記 6:5-6)。

しかし、完全に全てをなくしてしまうのではなく、ノアとその一族、加えて全ての動物ひとつがいを残すと契約されました(「わたしはあなたと契約を立てる。あなたは妻子や嫁たちと共に箱舟に入りなさい。また、すべて命あるもの……から、二つずつ箱舟に連れて入り、……」創世記 6:18-19)。そして、その契約通り、大洪水が起こり、箱舟に乗った命は全て救われます(「ノアが六百歳のとき、洪水が地上に起こり、水が地の上にみなぎった。ノアは妻子や嫁たちと共に洪水を免れようと箱舟に入った。清い動物も清くない動物も、鳥も地を這うものもすべて、二つずつ箱舟のノアのもとに来た。」創世記 7:6-9)。

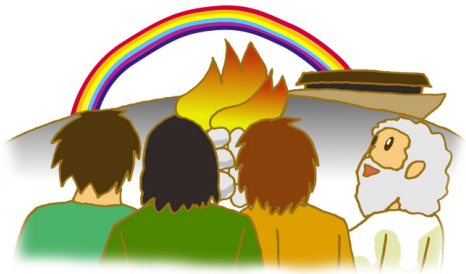
なぜ「ノアは主の好意を得た」(創世記 6:8)のでしょう。神の気まぐれでしょうか。決してそのようなことはないでしょう。神は造られたものを一つひとつ見つめておられます。地上のあらゆる命が堕落する中で、神の言葉に耳を傾け続けるノアを、神は見逃されません(「いかに幸いなことか／神に逆らう者の計らいに従って歩まず／罪ある者の道にとどまらず／傲慢な者と共に座らず主の教えを愛し／その教えを昼も夜も口ずさむ人。」詩編 1:1-2)。ノアの姿を見て神は、人は必ず立ち帰ることができると期待されました。

だから洪水の後、ノアと、そして全ての命と永遠の契約を立てられます(「わたしは、わたしとあなたたちならびにすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた契約に心を留める。水が洪水となって、肉なるものをすべて滅ぼすことは決してない。雲の中に虹が現れると、わたしはそれを見て、神と地上のすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた永遠の契約に心を留める。」創世記 9:15-16)。もう決して滅ぼしたりはしない、と約束されます。今後はただ、人間の立ち帰りを期待する、と。

しかし、それでも堕落してしまうのが人間の悲しさです。いつまで経っても成長しません。神と共に歩むために定められた律法を、自己実現のために、また他者を裁くために用いる者さえ現れます(「イエスが食事の前にまず身を清められなかったのを見て、不審に思った。主は言われた。『実に、あなたたちファリサイ派の人々は、杯や皿の外側はきれいにするが、自分の内側は強欲と悪意に満ちている。』」ルカによる福音書 11:38-39)。

外側ばかり取り繕って、自分中心の思いから脱却できません。神に立ち帰るどころか、ますます神の思いを踏みにじってしまいます。せっかくの永遠の契約さえも忘れてしまうのです。　そこで神は独り子をお与えになることを決意されました。「一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得る」(ローマの信徒への手紙 5:18)ために。改めて神との永遠の契約に立ち帰らせるために。

もちろん、神の約束が違えられることはありません。しかし、自分を見つめ直すことなく呆然と待っていて良いものでもありません。

「だから、あなたの中にある光が消えていないか調べなさい」(ルカによる福音書 11:35)。自分を吟味しながら待つのです。時には忘れてしまうこともあるでしょう。それでも、「雲の中に虹が現れると、わたしはそれを見て」(創世記 9:16)、神との約束を思い起こす。

その繰り返しの先に主の降誕はやってくるのです。